



寄宿舎便り

令和5年3月3日発行

「美利河寮から社会へ」

校長 飯出 広行

厳しい冬の時期を超え、春の息吹を感じるころとなりました。

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。また、卒業生の保護者の皆様、我が子の成長された姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。

15歳の春、我が子の将来のため、自立のためと思い、寄宿舎への入舎を決意されるにいたり、様々な思いがあったこととお察しいたします。御不安や御心配はもちろん、学校・寄宿舎への御期待があったことと思います。学校・寄宿舎はその思いを受け止め、保護者の皆様になんとか入舎して良かったと思ってもらえるよう職員一同努めてまいりました。帰省のたびに、たくましくなっていく我が子をお見せすることはできたでしょうか。

本校のように寄宿舎を併置する学校は、学校と寄宿舎が一体となった教育が特長となります。その特長を発揮していくために、改めて寄宿舎教育の意義を再認識しているところです。寄宿舎生活は、家庭的な雰囲気を大切にしながら、生徒一人一人が安心して生活できる環境のもと、基本的な生活習慣を身に付けるとともに、集団生活を通してコミュニケーション能力や豊かな心情、規範意識、行動力等々の育成を図ります。寄宿舎生活で学ぶことは、卒業後の地域生活や社会生活を送る上で、必要なものばかりです。例えば、集団のルールや規律を守ること、同僚や仲間と触れ合うことが必要になります。その時のために、これまでの経験は貴重な財産となります。

今年度を振り返ると、1年生はすっかり寄宿舎生活にも慣れ、集団のルールや規律を守り、同級生や先輩たちとの関わりも多く見られています。2・3年生は、1年生を優しくサポートしている姿がありました。先輩としての自覚と、集団生活のリーダーとして、様々な場面で自発的な行動が見られていました。特に、寄宿舎生活をより良いものにしようと、また余暇の充実のために、アイデアや考えを出していました。また、舎の行事等では、舎友会執行部や実行委員として、まさに企画運営を行っていました。このような経験も、今後の生活の大きな糧となります。

結びになりますが、保護者の皆様、この一年間、寄宿舎の教育と運営に御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。引き続き、安全安心な寄宿舎運営のもと、寄宿舎教育の充実及び発展に努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





12月21日に冬フェスがありました。僕の担当は司会でした。練習で声を出して原稿を言ってみたら、ところどころ突っかかってしまったり、焦って早口になってしまったりしました。正直、当日の司会で盛り上げられるかどうか心配になりました。でも、本番で盛り上げないと暗い冬フェスになってしまうのが嫌なので一生懸命練習しました。

冬フェス当日になって緊張しましたが、大きな声を出して皆を盛り上げることができました。終わった後に達成感がこみ上げてきました。冬フェスを盛り上げることができて良かったです。

(執行部代表①)

私は、冬フェスで楽しかったことは2つあります。

一つ目は、それぞれのブースが良かったです。男子棟は「お総菜系」で、ポテザンギやカレーチャーハンが美味しかったです。女子棟は「スイーツ系」で、マカロンとグレープフルーツジュースが美味しかったです。

二つ目は、ウサギの耳をつけて「もちつき」をしたことです。とても緊張しましたが、やってみて楽しかったです。いろいろと食べることもできてとても楽しかったです。また、卒業後も参加してみたいです。

(執行部代表②)





男子棟行事



コロナ禍でなかなか実現できなかった外食会でしたが、3年ぶりに行うことができました。グループに分かれて焼肉屋やお食事処などで食べたいものを選び、食事をしながら楽しいひとときを過ごしました。



女子棟行事



感染症対策をしながら、オードブルやスイーツで会食会をしました。みんなで楽しくおしゃべりをしながらの食事を満喫し、3年生との楽しい思い出も作れました。



編集後記

3年生のみなさん卒業おめでとうございます。感染予防のために多くの制約があった美利河寮での最後の1年でしたが、思い出はたくさんできましたか？今金高等養護学校で過ごした3年間の思い出を大切に卒業後も頑張ってくださいね。1,2年生の皆さんは残りわずかな3学期を体調を崩さず元気に過ごしましょう。4月からは新1年生を迎え新しい寄宿舎での生活が始まります。先輩として新1年生を優しく迎えましょう。

保護者の皆様には1年間寄宿舎運営に御理解と御協力をいただきありがとうございました。

開舎日～令和5年 4月 9日（日）午後1時からとなります